

*** 研究目的**

わが国における 2006 年の平均寿命は男性 79.0 歳、女性 85.81 歳であり、日本人の寿命は延びる一方、認知症に対する危惧も否めない。我が国における認知症の罹患患者数は 150 万人を越え、65 歳以上の高齢者での有病率は 3.0%~8.8%とされている。高齢者の健康増進や脳の活性化には、軽度の歩行運動が効果的であることは報告されているが、歩行運動がどの程度の認知症レベルの患者まで効果的であるのか、認知症レベルにより活性化する脳のパターンは異なるのか、また認知症レベルにより歩行動作にある一定の特徴がみられるのか、は明らかではない。そこで本研究では、これらから認知症と歩行動態の関連性を明らかにし、認知症の早期発見、予防に役立てていきたい。

*** 研究チームメンバーと研究課題**

曾我部晋哉 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究
センター

前田多章 甲南大学理工学部情報システム工学科 認知症レベルの違いにおける
准教授 歩行時の脳波計測